

## 2024.09.04 すばる科学諮問委員会 議事録

日 時 : 2024.09.04 10:00 – 14:40 JST

場 所 : zoom 接続

zoom 出席者: 諸隈智貴、稲見華恵 (13:00-)、大栗真宗、河北秀世 (-12:00)、佐藤文衛 (11:00-)、  
下西隆 (-12:00)、松岡良樹 (-12:00)、守屋亮、伊王野大介 (-12:00)、和田武彦、  
川端弘治、但木謙一 (-12:00)、久保真理子 (-12:00)、(ex-officio)植村誠

zoom 陪席者: 宮崎聡、早野裕、神戸栄治、小山佑世、David Sanders (Director's Report only)

書 記 : 岡本桜子

===今回の A/I 及び議論サマリ===

- 宮崎所長から観測所の状況について以下の報告があった
  - ハリケーン Hone による記録的大雨で、一部装置の結露や、ドーム外壁塗装の一部が剥がれるなどの影響があった。今後の防水対策が必要である。
  - 7/12-8/29 の観測は、天候不順や望遠鏡トラブルの影響もあったが、おおむね順調だった。
  - PFS の試験観測が、全ての構成要素が揃った状態で初めて実施された。

### 【議論】

- 新 SAC 委員長に諸隈智貴委員、副委員長に久保真理子委員が就任した。
- TMT-SAC との連絡窓口は伊王野大介委員が務めることになった。
- 8/29-30 に開催されたすばる 3 研究会について、大栗委員より報告された。
- すばる UM FY2024 の開催に向けて検討を始めた。
- すばるの 25 周年について、Nature Astronomy と天文月報の特集号で取り上げられる予定である。さらに別途文集を作成する案は、将来計画も盛り込むことも併せて、引き続き観測所内で検討される。
- PFS 戦略枠公募の第 3 次審査が行われ、1 件の申請課題が採択された。次回 SAC で第 4 次審査を実施する。

9 月よりすばる科学諮問委員が改選となっているが、引き継ぎのため新委員と旧委員の参加のもと、新旧合同のすばる科学諮問委員会として開催された。

### 1. Report from Subaru Telescope (by Miyazaki)

- Operation (2024/7/12-2024/8/29)
- Telescope
- Development

## 2. 前回議事録の確認、および承認

前回の議事録を承認した。

## 3. 新 SAC への引継事項

### 【まとめ】

新 SAC 委員長に諸隈智貴委員、副委員長に久保真理子委員が就任した。また TMT-SAC との連絡窓口は伊王野大介委員が務めることになった。また引き継ぎメモの重点的な部分について、大栗委員より説明された。

### 【詳細】

大栗委員より以下の状況が説明された。

本日の会議より新委員が 5 名加わり、3 名が退任する。前期より人数が増えたので、次回以降に元に戻すかさらに人数を減らすかどうかなど検討する必要がある。新委員長は諸隈さんである。本日は体調不良とのことで、引き続き大栗委員が議事進行を務める。

### ● 副委員長について

#### 【議論】

大栗：副委員長については委員長が指名することになっているが、諸隈さんのご意見はいかがか。

諸隈：2 年の任期中に起こる大きめのイベントとして、たとえば PFS 運用の安定化や ULTIMATE が形になる段階であることを踏まえると、自分は ULTIMATE との関わりが薄いので、その辺りに詳しい方が良いように思う。久保さんはいかがか。

久保：他の委員に助けていただくことも多いと思うが、それでよければお引き受けする。

大栗：それでは、副委員長は久保さんということでよろしくお願いします。

### ● 引き継ぎメモについて

引き継ぎメモの中で、特に重点的な部分について大栗委員が説明した。

#### 【議論】

大栗：TMT-SAC との窓口になる委員を決める必要がある。伊王野さんが適任か。

伊王野：TMT と近すぎるのではないか。

諸隈：伊王野さんが自然ではあるが、確かに近すぎるかもしれない。役割は、TMT-SAC とすばる-SAC の合同会議などでの窓口対応か。

大栗：その意味では、窓口は委員長でいいかもしれないが、委員長の仕事を減らすという観点では、別の委員が良さそうだ。伊王野さんで良いのではないか。

伊王野：それならばお引き受けする。

#### ● SAC 議事録について

##### 【議論】

大栗：議事録が細かすぎるのではないか、また発言者の名前は不要では、という意見があった。前期に検討した際は、名前がないと誰の発言かわからずに議事録を確認・修正しにくく、また公開版だけ名前を削るのもどうかというような議論があった。

川端：細かさについて、今の詳細さが役立っていないということか。

大栗：議事録が役立っているのは間違いない。どこまで簡略にすると不便になるのか判断が難しい。

諸隈：現状、各議論アイテムに対して冒頭にまとめがあった上で細かいやり取りが書かれているが、そのサマリーも細かすぎるということか。詳細が細かいというのなら、読まなければいいように思う。

松岡：名前が載ることで発言しにくくなる部分はあるが、コミュニティ代表として責任のある発言をするべきであり、その観点で名前は必要ではないか。詳細すぎる箇所は、委員が議事録を確認する際に対応できるのではないか。

大栗：おおむね、今の議事録の形式で良いという意見が多いようだ。前期と同様とする。

#### ● SAC の頻度について

##### 【議論】

大栗：すばる SAC は国立天文台の他の諮問委員会よりも開催頻度が多い。コミュニティの負担を減らすために、検討が必要か。

宮崎：ALMA SAC などに比べて頻度が多いことについて、他の委員も経験されている方々で検討されると良いと思うが、個人的な意見としては、今のような頻度でコミュニティと交流することは、観測所にとっては有用であり、感謝している。

大栗：引き続き検討する。

#### 4. 10 月以降の SAC 日程

日程調整により、日本時間で 10/8 (火)、11/15(金)、12/10(火)、1/14(火) の開催とすることが決まった。

## 5. すばる 3 研究会 報告

### 【まとめ】

8/29-30に開催されたすばる3研究会について委員長より報告された。参加者は約100名であり、そのうち半分程度が現地参加だった。研究会で事前に行ったすばる望遠鏡の将来に関するアンケート結果も研究会で議論された。すばる3については、研究会の議論やアンケートの結果を踏まえて、今期SACでも引き続き議論してゆく。

## 6. すばる UM 準備

### 【まとめ】

FY2024 UM 開催に向けて検討した。世話人はSACから3名(うち1名は委員長)、観測所から4名が務める。

### 【詳細】

FY2023 UM で会場の予約を取るのが大変だったことを踏まえて、国立天文台の大セミナー室を仮予約してあることが説明された。

### 【議論】

守屋：大セミナー室は2/1以降、年度末まで設備工事で使えないかもしれないので注意が必要だ。

大栗：SACからの世話人について、新委員長の方で個別に依頼していただけると良い。観測所側の世話人もよろしく願います。

諸隈：承知した。

宮崎：承知した。所内で検討する。

大栗：前回の世話人から詳細な引き継ぎ資料があるので、参考にしていきたい。

## 7. すばる 25 周年文集

### 【まとめ】

すばるの25周年について、Nature Astronomyと天文月報の特集号で取り上げられる予定である。文集を作成する案は、将来計画も盛り込むことも併せて、引き続き観測所内で検討される。

### 【詳細】

Nature Astronomy から所長に、すばる25周年についてのレビュー記事の執筆依頼があった。所長、委員長、小山さんで記事を準備している。また天文月報でも特集号が企画されている。また英文の研究ハイライトを文集のような形で集めてarXivで公開する案について、検討した。

### 【議論】

小山：自由な形で募集しても動きが鈍い可能性もあり、意見分布を知りたい。今のすばるユーザーが文章を寄せることで、今後の参考になる部分は大きいと思うが、労力をかけて

いただくことにもなり、そのあたりのバランスが難しい。

大栗：委員の中で、ぜひ書きたいという方はおられるか。

松岡：依頼があれば協力したいと思うが、このような企画は特定の人に依頼されることが多い。もしやるなら幅広い人々にお願いするのが良いように思う。例えば研究グループの代表者ではなく、その中の若手に依頼するなどが良い。

佐藤：25 年間の内容が対象なのか、あるいは最近 5 年などか？

小山：人によってすばるとの付き合いの長さは異なる。付き合いの長い方は 25 年、若い方は 5 年などでも良いのではないか。自分が思う研究ハイライトを書いていただくのが良いように思う。

佐藤：10 周年、20 周年の時には何か行われたのか？

小山：文集に相当するようなものは無かったように思う。

佐藤：今回初めて行うとすると、それなりに大きなプロジェクトになるのではないか。

小山：文集全体を企画・調整する場合には、編集などに労力と時間がかかるかもしれない。

但木：この文集を作る目的がよくわからない。海外向けだと思うが、読んでもらえるかどうか。個人的には、*Nature Astronomy* と月報で十分のように思う。

大栗：どの程度の人数を集める予定か？

小山：募集して集まった分、また *Nature Astronomy* のレビュー記事に入れられなかった分などを想定していた。形があるものを残すということ、どれだけ重要視するかによるだろう。

大栗：天文月報は、すばるのサイエンスを網羅的にカバーするものにはならなさそうだ。

小山：一方で、すばると同規模の観測所では、将来に向けたサマリーブックがある。すばるには今のところそのような公開文書がないので、25 周年に加えてその先を見据えた文書があると、すばるの将来を知る参考資料として、海外からもある程度読まれるのではと思う。

大栗：将来計画をまとめるとなると、さらに労力がかかりそうだが、それをどう捉えるか。

宮崎：*Nature Astronomy* のレビュー記事に載せきれない部分をどうするか、という検討から始まった話である。すばるの将来に関する文書を作る場合、各分野の過去 25 年を総括した上で、それを踏まえて将来に向けた話を展開するのが良いように思う。25 周年の今年中には難しいかもしれないが、スコープを広げて整理するのが良いのではないか。すばる 3 は装置を基軸に話が進んでいるが、すばるのこれまでの活動を俯瞰できるような文書があると、将来を託される人々にも良いように思う。

大栗：すばるの将来の方向性について、交通整理が必要かどうかの議論もあり、今期 SAC でも審議していく必要があるだろう。そのような活動をする際に、文書をまとめるというのも一つの方向性だろう。ただし編集が大変になりそうだ。

宮崎：さまざまな意見を頂いたので、一旦、観測所に持ち帰って検討したい。

大栗：すばる 3 関連については、SAC でも継続して審議する。

## 8. PFS 戦略枠プロポーザル審査

### 【まとめ】

PFS 戦略枠の第 3 次審査を、利益相反のある委員、オブザーバーは退席のうえ行った。TAC から

の報告書およびプロポーザルチームから提出のあった体制作り報告書をもとに審議した結果、提案通り 360 夜の観測提案を採択することを決定した。想定している装置性能や観測ターゲット選定の有効性が完全には実証されていないことから、サーベイ開始 1 年後を目安として技術面の審査を行い、3 年後を目安として中間審査を行う。また次回 10/8 の SAC で第 4 次審査を実施し実行開始の最終判断を行う。

次回は 10/8 JST 開催。